

進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会 編集人 同窓会報編集委員会 委員長 遠藤俊夫 印刷 常陽新聞社



進

真鍋坂の朝：中27回 佐賀 進

平成八年度 進修同窓会総会開かれる

四月十四日(日)、本年度定期総会が母校体育館にて、二百余名の会員出席のもとに開催された。

まず、校歌斉唱・物故会員に対する黙禱ののち、所用のため欠席された幡谷会長に代わって、豊嶋副会長と青山校長が挨拶をなされた。次に、感謝状および記念品が前教頭の中島雅之氏に贈られた。続いて、酒井亨氏(中47)を議長に以下の議事が審議された。

- 一、平成七年度事業報告
- 二、平成七年度決算報告
- 三、平成八年度事業計画
- 四、平成八年度予算

五、同窓会基金報告

- (A) 平成七年度決算
- (B) 平成八年度予算

六、別途積立金報告の件
七、百周年記念事業については、なかでも七号議案については、平成七年度会計報告・現在までの募金状況と併せて、記念事業の計画変更の試案が出され、詳しい説明がなされた。そして審議ののち、全議案とも満場一致により可決・承認された。

総会で挨拶する青山校長

閉会の後、恒例の卒業周年祝賀会にうつった。本年度は、戦争の關係で卒業五十周年を来年に合同で行うことになった中四六・四七回の会員を除く、中三五回・高八回・定六回・高二回の会員が、それぞれ卒業六十・四十・二十五周年の記念の年を迎えられ、豊嶋副会長より挨拶・記念品贈呈があった後、中四六・四七回の飯田清氏から祝辞が述べられ、続いて中三五回の柴沼庄左衛門氏、高八回の大野金一氏、定六回の井井富雄氏、高二回の松浦安弘氏より謝辞が述べられた。

また、会場を別に移しての懇親会では、往時を懐かしんでの交歓が和やかな雰囲気のもとに繰り広げられ、盛況のうちに幕を閉じた。

会長あいさつ

—同窓生に問う—

同窓会会長 幡 谷 祐 一



百周年を迎えるにあたり、同窓会としての記念事業である希望の建築物の半分は、公の金庫から拠出して頂くことになり、私達の目標も当初の四億七千万円から二億三千万円余と約半分になりました。特に平成不況の中のスタートであっただけに危惧しておりましたが、幸い皆様の理解を賜り目標を突破出来たことに、心から感謝の意を表するものであります。

私が同窓会会長になったのは清水校長の時代であり、大曾根・青山校長と三代目でありました。何としても意義ある記念行事の完成披露をしたいと思っております。本学は今や日本有数の進学校となり、卒業生であることに誇りを感じております。

現在は勉強の方法も変わってきており、大正人の私には理解出来ない面が沢山あります。然し乍ら、勉強は出来ても人間性に乏しいのが現代社会です。独立国が如何に大切なことも忘れ、自分達のシンボルである国旗を粗末に取り扱ったり、国歌を歌うのを躊躇ったり、拒否したりする現実があります。特に旧ユーゴスラビアの様に互いに独立国になるため、又同一民族で国を維持したために、現在に到るまで多くの血を流し続けている現状を見ると、日本人は五十年の泰平に馴れてしまい総てが易きにつきたがるようになってしまいました。悲しいことですがこんなことが、お詫び外交につながっております。

私の青春時代は戦争に明け暮れ、ひたすら国を守ると云うことに一心不乱でした。今は米国の占領政策に依って、家族制度も崩壊、学校制度も変更され、良俗習慣も失われつつあります。少なくとも当校の出身者は社会人となった時、学識はもとより秀れた指導者になってくれることを望んでいます。洗練されたマナーを身につけ、

名実共に土浦一高卒であることを誇れるような日本人として成長されることを切望しております。歴史を正しく見て未来を思考することは大切なことですが、昨今は歴史を無理にねじ曲げたり、終戦以来日本国を悪しざまに言うことが、文化人・革新的だと思ふ輩が多く、この素晴らしい国を傷つけています。「正論」七月号に、清水警八郎氏の筆になる「反目的日本人の罪」と云う一文が掲載されています。又谷沢永一氏の「悪魔の思想」と云う本にも同じようなことが書かれてありますが、情けないことです。

自分達のお世話になってる国を悪しざまに云うことで、国民のご機嫌をとっている。又その風潮を許している私達も悪いと云えます。よく揶揄した言葉に経済は一流、政治は二流、国民は三流と云われるが、その通りになってしまいました。小さな波紋でも、当校卒業生から良俗の復活ができればと願っております。私を古いと考える方もあると思いますが、中共ですら論語の復活に精力的に取り組んでいると報道されています。何千年経とうが、人の道は変わらないと言ふことです。

土浦一高(富岡)会館支部会
顧問 飯田 清

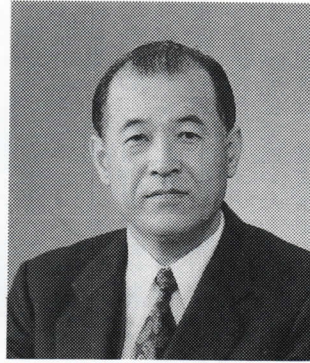
懐古百年校風活
同窓集来温久闊
校長報告入學歡
未來偉業願齊歎

平成八年六月二十三日

百周年記念事業と

本校の教育

学校長 青山和義



会員の皆様にはご健勝で有意義な毎日をお過ごしのこととお喜び申し上げます。本校の創立百周年はいよいよ来年に近づいてまいりました。現在会員の皆様のご協力を得て、着々と記念事業の準備を進めているところでございます。

百周年記念事業の現況

募金状況については会員多数のご協力により、五月末日に目標の二億三千万円を越えました。厚く御礼申し上げます。当初目標額は二億円でしたが、学校側の要望として「同窓会館兼アリーナ」の床面積一七六㎡の増設をお願い致しましたので、目標額が三千万円増額されました。これは第三回実行委員会総会で承認され、増額分は篤志寄付で集めることになりました。篤志寄付の募金活動につきま

しては、幡谷祐一同窓会会長、豊嶋貴副会長（土浦支部長）幡谷浩史副会長（水戸支部長）の三氏に大変お骨折りをいただきました。

記念事業の中核をなす「記念館」の建設ですが、現在県費で建設されています。「多目的学習館」が七月末日までに完成の予定です。募金により建設される「同窓会館兼アリーナ」につきましては、当初、多目的学習館と同時着工を考えたましたが、当時募金状況がまだ一億五千万円程度で増設分まで含めて着工出来るか不安がありましたので、多目的学習館完成後に延期いたしました。この秋には着工され、記念式典前には完成の予定です。

記念事業のもう一つの柱であります記念誌の進行状況ですが、原稿を依頼しましたほとんどの方からご協力が得られ、現在約百七十名の方々から玉稿を頂いております。またインタビューテープの起稿、座談会の開催などいよいよ詰めの段階に入り、担当者の編集、執筆が始まろうとしています。約八百頁の内容で、装丁とも立派な記念誌ができるものと期待しています。過日の記念誌委員会で送料も含め三千五百円で購入希望者を募ることになりました。ぜひご購入

入されますようお願い致します。式典関係では、第一回式典委員会平成九年の秋に記念式典を実施することが決定されました。

本校教育―授業を大切に

最近、本校の教育が全国的に注目されております。そこで日常の教育活動を通して重点的に行っていることを具体的に紹介いたします。本校教育の特徴として次の三つが挙げられます。

第一は、授業の重視です。授業時間を確保し、自習時間がほとんどありません。現在、学校五日制への対応として一単位時間五十三分授業を実施していますが、授業時間を一分たりともおろそかにしない態度で臨んでいます。また授業では生徒の進路を考慮して、難関大学の受験にも対応できる高レベルの内容をわかりやすく教える努力をしています。教員は授業の準備に、生徒は予習・復習にかなりハードな毎日を送っているはずです。そのかわり課外は夏休みの一週間程度で平日は実施していません。

第二は、学年を中心として生徒指導を組織的に行っていることです。学年主任、副主任、担任九名の計十一名は原則として持ち上がりで、国語、数学、英語などの教科は各学年三名程度配置し、その学年だけを教えるようにしています。学校行事も前年にとらわれず、各学年独自の方針で決められる体

制をとっていますので、マンネリ化を防ぎ、学校の活性化に役立っています。

第三は、生徒との個別面談の重視です。クラス担任は最低でも年間五回程度、三年になると十回を越える面談をくりかえしています。生徒と数多く接することにより、生徒の実態を把握し、悩みの相談、進路指導、学習指導など幅広く役立てることが出来ます。

この三本柱が、生徒と教員の信頼感をつくり、進学面での実績を生み出す力となっています。これらのことは三十年も前から行われてきましたが、教員の共通理解が年々徹底されてきているように思われます。

また、ここ数年特に力を入れていることに体験学習があります。最近の生徒の傾向として逞しさに欠けることと、人間としての幅が狭くなっていることがあります。具体的には、学力はあるがその他の資質に欠ける。挫折や嫌なこと・つらいことを経験したことがなく、困難に直面したとき落ち込んで立ち直れない。おとなしく、友人が少なく、人と人との関わりを嫌う。与えられたことは行いが自ら進んで行動できないなどです。こうした傾向の強い生徒をみますと、これまで勉強一辺倒の生活をしてきた生徒が多く、その原因の一つが身体で覚える学習の不足にあるように思われます。そのため部活動を奨励し、学校行事を通してさまざまな体験をさせて心

豊かで逞しく、主体的に行動できる人間の育成に努めているところです。

在校生に望む

本校では現在、残念ながら生徒会新聞等が発行されておりません。そのため生徒諸君に文章を通して語りかける機会がありません。そこで最後に生徒諸君に心掛けてほしいことを述べてみたいと思います。これまでに集会で話したこともありますが、それは何事にも失敗を恐れずに常に前向きに取り組むこと。自分の殻にこもらず、他から学ぼうとする素直な心を持つこと。そして勉強の息抜きに、何か気分転換する方法を身につけることです。今年進路指導部で作成した合格体験記によると今春、大学に合格した先輩の多くが、悪い成績をとったり、長いスランプに陥ったりして、ある期間全く勉強が手につかないつらい思いを経験しているようです。しかしこれらの先輩の良かった点は、このような困難に直面しても目標を失わず、それぞれの状況に応じて努力を続けたことです。そしてその原動力が前向きな姿勢、素直な心、上手な気分転換にあったように思われます。本校生は誰もがすばらしい可能性を持っています。それを発揮するため、全校生徒が明るく逞しく、意欲をもって充実した生活をしてほしいと願っております。

百周年まであと一年

百周年記念事業進む

第三回実行委員会

平成八年三月十六日電ヶ浦観光ホテルにて、第三回実行委員会が盛大に開催されました。百七十余名の実行委員の方々が出席され、総務委員会より提示された募金目標を三千万円増額し、二億三千万円とすること、百周年記念事業実行予算案、及び式典委員会より提案された式典期日案(平成九年秋)が承認されました。

建設委員会

百周年記念事業の一つに、同窓会館建設が盛り込まれて五年余りが経過しました。これに合わせ、県発注の、多目的学習館の設立が発表されました事は、会員皆様の御承知の通りであります。

そして、この七月、学習館の方が一歩先に完成いたしました。その雰囲気は、重文指定の旧土浦中学校本館のそれを非常によく伝え、すばらしい仕上がりとなっています。校内の実行委員会、何度も会議を開き、利用者側に立った設計上の要望をまとめ、県当局に伝えましたところ、我々の望む以上に様々な配慮をいただき、有り



多目的学習館

難く感謝する次第ではありますが、これは建設工事関係の方々に対しても、全く同様であります。学習館の格子の窓、外壁、屋上の風見鶏等を眺めておりますと、旧本館の生まれ変わりのような印象を受け、感銘深いものがあります。内部は、一階には、教育相談室、資料室、多目的ホールが配され、二階には、大学習室、小学習室がありますが、この二室は合宿の際の宿泊室としても利用されることとなります。

これからの学習館の活用は、本校の教育活動に大きな貢献を為す事は確実であります。そして、いよいよ今秋アリーナ兼進修同窓会

館の着工となります。進修同窓会会員皆様の御協力により、進修百年を祝賀する記念館の落成を期待しております。

百周年記念事業校内実行委員長

川村 和夫

記念式典

百周年記念式典は、平成九年十一月一日(土・大安)に挙行されることに決定しました。当日は記念式典の他にミニコンサート、祝賀会が予定されています。

また、記念式典に先立ち、十月三十一日(金)には卒業生による記念講演も行われることになっております。

百周年記念誌編纂

記念誌編纂は、編纂委員会によって順調に進められております。

すでに百七十余名のOBから玉稿をいただき、編集作業に取り掛かる所です。当初、七百頁を予定していましたが、OBの方々のご協力により八百頁を越えるものになりそうです。しかし資料不足は依然として解消しておりません。中学時代の進修13・31・37号、高校になってからの進修新聞・土浦一高新聞をお持ちの方は、編纂委員会までご連絡下さい。

なお今回予約申込を受け付けており、定価は三千五百円。同封の申込書にてお申込みください。締切は平成八年十二月末日です。

百周年募金—目標達成—

皆様のご協力心から感謝します

百周年記念事業の募金につきましては、目標額が、平成七年七月第三回実行委員会において二億三千万円に変更されましたが(平成六年七月発足当時は二億円)、平成八年五月末日、ついに目標額を達成する事ができました(別表のとおり)。ご協力いただきました皆様、各学年の目標額達成のため、二年間にわたりご苦労いただきました幹事の皆様には、心から感謝申し上げます。

特に、定時制卒の幹事の方々は、ご自分の「足」でコツコツと集めて下さり、大変だったこととお察し致します。また通信制卒業の方からの協力もあり、大変嬉しく思っております。

この貴重な募金は、間もなく着工する同窓会館兼アリーナ建設の

	目標額 万円	5月末現在 万円
全日制合計	16,930	15,542.9
定通生合計	1,600	658.3
卒業生合計	18,530	16,201.2
篤志寄付		6,790.0
現職員		89.6
旧職員		212.5
篤志寄付合計		7,092.1
募金高総合計		23,293.3

他、記念式典費・記念誌編纂費等有意義に使わせていただきます。(事務局)

平成九年度

進修同窓会総会の案内

◎日時 平成九年四月十三日(日)

午後一時より

◎会場 母校体育館

◎卒業周年記念祝賀会

卒業60年 中36回

50年 中46・47回

40年 高9回・定7回

25年 高23・24回・定21回

懇親会の案内

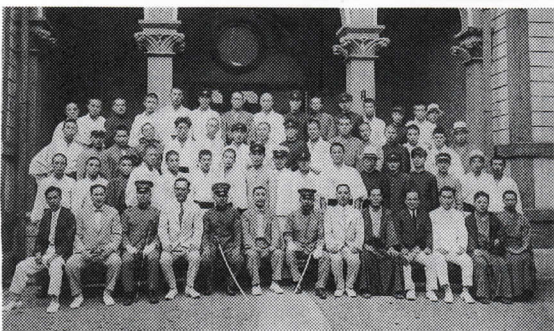
◎時間 総会終了後(午後三時頃)

◎会場 電ヶ浦観光ホテル

(移動にはバスを用意します。)

◎会費 五千円

会員各位多数ご出席下さい。



第一回同窓会総会記念撮影(昭9.8.5)

—米・英・加・アフリカ・研修記—

Bath大学での語学研修中、ある

カナダ、リンゼイ
サーバー高校日本
文化、書道風景、
右上は筆者

同じく英国における語学研修にも参加した。バス待ち、食事にも人々はよく行列する。誰もがゆつくりのんびり。辛抱強く列を崩さない。ゆとりある生活の表れである。学校でもよく目にし

g, no fire, no speaking の三条件が科せられる。ねらいは文明の有難さ、自然の摂理、友情の大切さを身をもって体験させることにあるという。夜来一大雷鳴が轟く。翌朝担任が生徒一人ひとりを拾って歩く。生徒は教師に抱きついて離れない。私はこれぞ教育と実感する。

た光景である。社会家庭での行動が反映され、学校が社会と遊離しない。不便でも秩序と心の余裕を大切にすること。これをしもイギリス病というなら、日本も少しこの病にかかつてはどうか。バスの乗り降りドアの開閉一つにサンキューの音が聞かれ、社会生活の快適さを実感した旅である。live

comfortably　これがゆ
とりの英語表現である。

は一切口にしない。住民と積極的に会話はすること等。当然にシヨックは大きかった。しかしこの異質文化から受けるシヨックが大きい程、それから吸収する収獲も大であると考えた。当然失敗談も多い。到着後直ちに観光に飛び出したが、帰路は道に迷い、ホテル名が頭にないからそのホテルに戻れない。夜のニューヨークにも外出した。財布を二つ持ち、片方を何時でも投げ出せる用意をした。足早に歩き、キョロツクのを押さえた。カメラは撮り終

英国本土の70%は緑溢れる丘、英国はグリーンカントリーである。白いメッシュの靴が最後まで汚れない。適度なシヤワーが街を洗い清め、窓辺の草花と緑の安らぎが旅の疲れを癒す。社会資本の充実が欧米社会の特色の一つだが、私はこの豊かな緑をも、そこにある静穏とともに社会資本と呼びたい。ある朝バス停でバスを待ったが、定刻になっても来ない。いらいらし始めた時、前の英国人が「そうだ、今日はバンクホリデーだ。僕にとつて休み

の日なら、運転手にとっても休みの日だ。バスは来ないよ。」そう言って彼はスタスタ歩き出した。他人の立場に立つてものを考えるとは、こういうことだ。

とか、私は思い知らされた。足取りも軽く私も歩いたがその後、日曜などデパートが閉店で不便を感じる度、彼の言葉が思い出された。

B a t h 大学での語学研修中、ある



カナダ、リンゼイ
サーバー高校日本
文化、書道風景、
右上は筆者

光地に多くの日本人が訪れる土地柳
日本語や日本文化に寄せる興味関心は
極めて高い。茶道、柔道、書道、折り紙、
俳句等具体的日本文化のデモンストレ
ーションには事欠かない。これらを組
み込む独自のカリキュラムの作成と指
導に全力をあげる。時に水戸黄門のビ
デオも挿入。

零下40度の厳冬にも、特別早朝クラス
の生徒に欠席者はない。将来日本の
忍者学校に入りたいなどと言う者も出
る。この生徒には今でも悔やまれる。
中間期末の試験に不合格点のため、単
位を与えなかった。授業に休まず、日
本文化に傾注していた生徒だったのに。
成績懇談では、父母への説明に、
他人の生徒の学習振りを知らせて苦笑
する。生徒名をファースト名で覚える。
その服装容貌には度肝を抜かれるが、
どの生徒もフレンドリーで親しみが沸
く。十六歳で仮免許が取得出来、登下
校時の校庭は車のエンジン音が響き合
う。

ける博士号取得が如何に困難であるか、敢えて私事を記して参考に供したい。

長短期間を問わず、目的なき留学は言うに及ばず、現状逃避や単なる憧憬からでは事は成就しない。明確な目的意識と旺盛な好奇心、更に不屈のチャレンジ精神を持ってトライして欲しい。

海外生活の成果は世界のもつ多様性の認識にある。異文化の中にあつては、自国と己の身のアイデンティティが常に問われる。対比して知る日本の姿、己の姿にどれ程多くの再発見があったことか。21世紀を生きる後輩諸氏よ。

志しあるなら、自らの意志に基づく留學を、貴方自身の一大飛躍の機会とされんことを。「最も高くを飛ぶものが、最も速くを見渡せる」のだから。教育界にも望みたい。その硬直した規制、単一な価値観、異質なるものへの攻撃を改めて、多様性と個性の尊重、寛容とユーモア、更に信頼と人間性をもって教育に対処されんことを。

意、自信に満ちた豊かな知性に只々敬服するばかりであつた。さらに行動に

時には目頭を熱くした。
海外生活には多くの危険が伴うこと

恩師を訪ねて ①

社会科 永山 正先生

大正十四年～昭和四十年 在職



◇お生まれはどちらでしょうか。

水戸の常北町、農家の次男坊として明治三十五年に生まれました。父は分家させようと考えていたようです。ところが六年生の担任の先生から、水戸中学の入試を受けてこいと、突然言われました。翌朝三時に起きて試験を受けに行きました。夏休みまで、十六キロの道のりを友人と二人で歩いて通いました。歩きながら質問をしたり、答えたりして勉強をしました。行きに予習、帰りに復習です。一学期の成績が二百人中十二番でした。父はびっくりして二学期から下宿させてくれました。

◇土浦へ赴任するまでのお話を

大正十一年に卒業して県庁の産業課へ勤めました。中学の担任の荷見先生の処へ遊びに行くと、おまえは歴史の成績が良かったから文部省検定試験を受験しろと勧め

られました。先生は自分で勉強した本を十六冊ほど貸してくれました。県庁に勤めながら、受験勉強をしました。文検は、今の司法試験よりも難関で、合格までに三年かかりました。合格すると、水戸高女と土浦中学から誘いがありました。水戸中学の塚原校長先生に相談行くと、土浦中学には郷土史の大家長南倉之助先生がいるから、五年間勉強してこいと言われました。大正十四年のことです。

◇はじめての土浦の印象は

土浦はとても良いところだと思いました。川沿いの柳・ガス灯、水郷と呼ぶにふさわしい佇まいでした。桜井旅館に桜井信郎校長を訪ね、一緒に人力車で学校に向かいました。真鍋の坂を登り、浜街道の松並木を眺めて、校門を入ると、校舎の立派さにたまげました。

◇同僚の先生方の思い出は

一番印象深いのは長南倉之助先生です。先生との出会いで私の人生が決まりました。先生は大阪の八尾中学在職中、町史の編纂をなされておられ、この土浦でも郷土史の編纂を本格的にやろうと考えておられたのです。もし町で町史編纂をやる様子がないなら、ふたり

で土浦の歴史を作ろうと約束をしたのです。早速、長南先生のあとについて、市内はもちろん土屋藩の領内をくまなく自転車で回りまわした。誰も手をつけていない旧家の古文書や古墳をすべて調べて歩きました。先生が亡くなる前年、笠間城へ登ったのですが、その時先生は、「俺がいなくなっても必ず市史をつくれ」と何度もおっしゃられました。このために土浦を離れられなくなりました。長南先生との約束が実を結んだのが土浦市史です。編纂委員長として完成させた時は、すでに先生との約束の時から四十年の歳月が流れていました。

◇一番辛かった思い出は

戦後のグラント問題です。食糧増産のために農地にされたグラントで、戦後そのまま耕作が続けられ、農民と学校が対立してしまっただけです。農民との交渉が行われた時、小田文雄校長は病気で、長南俊雄教頭は水戸出張のため不在で、私が応対をしました。生徒たちは殺気立っていました。生徒をどのようにしてなだめて、喧嘩しないようにするかで苦労をしました。この時ばかりは自分がたとえ殺されようとも、生徒を巻き込んではいけません。流石の事態だけは避けたかったのです。幸いなことに中二十五回で県の農地委員だった酒井作衛氏が、県の農地課を説得してくれました。また中四回で天谷丑之助氏や

中七回の菊田禎一郎氏の尽力で、農地課が農民から土地を買い上げる形で紛争を収めました。

◇授業で心掛けたことは

普通に授業を受けていれば、それで受験勉強も兼ねられるような授業をしようと思掛けました。ですから要点は必ず繰り返しました。当時歴史地理には参考書がなく、自分でガリ版で作りました。職業指導主事としてNECの人事部長を訪ねた際に、その参考書を見せられました。息子も使っていると言われた時は嬉しかったです。

◇先生は一度も生徒を叱ったことがないとのことですが。

生徒との関係が、昔は今よりずっと親密なものでした。六月には必ず生徒の家を訪問することになっていました。生徒と話したのではわからないことが、家に行くと良くわかります。問題の多い生徒のところへは頻繁に通いました。成績が悪い生徒の家には試験の前、準備ができていないか点検に行きました。常に生徒とのふれあいを心掛け、生徒のために本当にやってきたから、生徒は私の言うことを良く聞いてくれました。私は生徒を叱ったことは一度もありません。私に怒られた生徒は一人もいないはずです。

◇お聞きにくいことですが、先生のあだ名の由来は

最初のあだ名は北条早雲でした。中二十六回の諸君が付けたのでしよう。教科書の早雲の坊主頭がよく似ていたのでしよう。その後、観山坊主になりました。これはもちろん私の姓の永山とひっかけたものです。高校になると僧正から大僧正に位が上がりました。

◇まもなく九十四才とのことですが、健康の秘訣をお聞かせください。

頭の健康と肉体の健康と、両方そろわなければ真の意味での健康とは言えません。

肉体的な面では、年二回精密検査を受けること。足腰の弱るのを防ぐため極力歩くこと。牛乳などで、カルシウムを補うこと。主食は若い頃の半分にし、間食はしないこと。副食は栄養価の高いタンパク質、海藻、野菜をとること。体のアルカリ性を保つため、毎食海藻類の酢の物をとること。

次に頭脳の老化を防ぐため、読書だけでなく標題をえらび文章にまとめること。私の主著四冊、共著七冊はその産物です。とにかく考えることがよいので、俳句でも和歌でもそれぞれの専門分野でもかまいません。そしてそれを発表すること。発表することで、忘れがちなことも忘れないですみます。私は今でも土浦短大の老人講座で茨城県史を受け持っています。

皆さんも、定年近くなったらぜひ実践してください。

卒業生レポート

-1-

芹田(旧姓・楨野)恵美子さん

土浦一高 定時制四十五回(平成八年卒)

土浦中学・土浦一高(全日制、定時制、通信制)合わせて卒業生二万三千余人。ゴシックの校舎に学び、紫峰筑波を仰ぎ、雄飛を誓い合った懐かしき青春時代。ともに真鍋台の校舎に学んだ同窓生たちの活躍のたよりを知ることが、我が事以上に嬉しいものです。地元を離れず、故郷の地で生活している者、遠く海外で働いている者、いろいろな人間模様があります。卒業生のその人間ドラマを追跡レポートとしてお届けします。

最初に登場していただく方は定時制四十五回の芹田(旧姓・楨野)恵美子さんです。

一人三役、頑張っている



今春、定時制を卒業された芹田さんは、筑波学園病院の准看護婦さん、看護学校の学生さん、新婚八カ月の若奥様と、一人三役を見事にこなされています。お話をうかがいたいとお願いましたところ、学校帰りに母校を訪れてくれました。

退院なさる患者さんの笑顔が一番の喜びです

筑波学園病院には定時制入学前から看護助手として勤務していましたが、その後准看護婦の資格を取ってから、定時制に入学しましたので、一高へは二十歳の時に入学しました。

定時制の時から、担当部署は結核病棟です。入院の患者さん約三十人のお世話をしています。結核という過去の病気と思われがちですが、若い人からお年寄りまで病気に苦しんでいる方がおられます。二、三才の子供さんも病気に闘っています。結核という病気は自覚症状がなくなっても長期間療養が必要なので、患者さんたちはどうしても精神的に不安定になります。ですからまず心掛けていることは、患者さんが安心して

て生活できるように配慮してあげることです。そのために特に言葉遣いに気をつけています。患者さんにはいろんな方がおられます。三食きちんと食べられないとか、夜が不規則だとか、仕事や家庭の事情等どうしても普通の生活ができない方がおられます。患者さんはほんとうにさまざまです。こうした患者さんに健康の大切さを考えてもらったり、きちんと治療して元気になって、帰ってもらえるのが一番の喜びです。若い方でもどうしても長期療養を余儀なくされるので、退院はほんとうに嬉しいものです。

患者さんと接すること
で自分自身の勉強にも
なります

医療の現場では、看護婦の人間性が重要視されるようになってきました。不安を抱えて療養している患者さんにとっては、それこそ白衣の天使(ナイチンゲール)のような存在にならなければいけないと思うのです。それには患者さんだけではなく、いろんな人達の意見や考えを否定することなく受け入れられるようになりたいと思っています。病気のときこそ、一人一人の人間性がストレートにでてきます。それを否定することなく、優しく誠意をもって受けとめられようになりたいと思います。いろんな方の本当の姿を間近に見ることが、自分自身にとってとて

も良い勉強になっていると思います。それから同じ医療にたずさわる人達と共に看護について考え、医学の進歩と共に勉強していくことも自分自身の勉強になっています。



今も学生しています

定時制の時と比べると、看護学校は進度が早く、授業についていくのがやっとなです。准看護学校の時に看護の勉強の厳しさはわかっているつもりだったのですが、授業の内容や質問もより高度で専門的になっていきますので、予習・復習をしておかないといけません。学校は筑波学園病院の中にあり、生徒数は三十七名です。同じ筑波学園病院から通う仲間が約半数で、あとは他の病院から来ています。

学校は午後一時からですので、時間的には定時制時代よりずっと楽になりました。しかしその分、勤務時間が減ったために給料は半減しました。とてもこれでは生活できないので、奨学金をいただい

ています。学校はあと二年半ありますが、なんとか国家試験合格まで頑張りたいと思っています。

料理もだいぶ上手になりました

定時制四年の十月に結婚しました。先生方や同級生が結婚式の前日にお祝いの色紙や花束を贈ってくれました。看護学校の受験を控えて、主人の母が入院するなどたいへんでしたので、主人も私も看護学校に合格するとは思っていませんでした。ですから合格通知が届いた時はびっくりしました。私が看護学校に行きたいということ、主人は承知の上で結婚してくれましたので、理解はしてくれています。合格したら看護学校で頑張るといふことだったので、主人も卒業してくれなければ困るよと言ってくれます。

定時制時代にくらべて、主婦業にも慣れてきました。主人は電力会社勤務で日立に通勤しています。残業もあるのですが、家事の手伝いも良くなりました。今は日曜日に何回か休めるので、定時制のときよりは一緒にいる時間が多くなりました。定時制の時にはほとんど休みがありませんでした。それでも夜勤があつたり、結構すれ違いになるのですが、お互いたいへんなので、すれ違いで調度良いということもあります。私の希望をかなえるために協力してもらっている主人にはほんとうに感謝しています。

支部だより

水戸支部

平成七年十二月六日、水戸支部総会が、幡谷祐一進修同窓会長、青山和義学校長をお迎えし、忘年会を兼ねて開催されました。七月に引き続いての総会でしたが、五十名余の方々が参加されました。

幡谷浩史支部長の御挨拶に続き、会長から、百周年記念事業に関する御挨拶、恒例の学校長による母校近況報告をいただき、懐かしさを感じたり、感心させられたり、会は順調に進行し、校歌合唱の後、懇親会へと移りました。県内各界の重鎮の方々に混じっての歓談ともなると、気が引ける思いと、参加できる喜びとが入り交じり、改めて土浦一高の同窓生であることに、大きな誇りを感じました。また各企業の諸先輩から声をかけていただき、仕事面、人生面という

いふ勉強になる貴重な場でもありました。

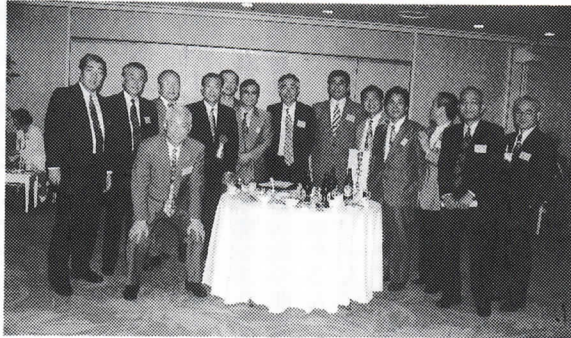
会は最後に、声高らかに万歳三唱をし、散会となりましたが、また来年、諸先輩との再会、母校の近況報告を楽しみにしております。

高十二回 小林 一生

東京支部

(東進会)

東京支部は、従来から通称とし



東京支部総会で

てきた「東進会」を、本年四月から支部の正式名称とすべく規約を改正し、去る六月十五日の支部総会の承認を得た。同時に支部幹事を理事、代表幹事を理事長と改称し、会長とは別に実務方の責任者と位置づけた。

総会は、約百四十名の会員が出席して恒例の東京プリンスホテルで開かれた。毎年当番幹事(年次)を決めて準備するので、担当の年次は出席者が多く、以後も引き続き出席するようになる。

多い年次は十五名位出席するが全然出席しない年次もあるので、その年次、とくに昭和四十年卒業以降の学年幹事を補充していくの

が課題である。

支部の事業としては、総会での講演会、趣味の会などの継続的な実施を、今までの支部会報の発行と連繫させながら企画していく。因みに支部会報を郵送する年会費納入者は約四百名、予算規模は三百四十万円である。

理事長 高八回 大野 金一

竜ヶ崎支部

下平屋ブライダルホールに於て、平成七年十二月九日に恒例の忘年会が開かれました。

学校より青山和義校長先生と橋本忠一事務室長のお二人をお迎えし、新役員体制で会が進められました。昔の話に花咲くところあれば、自慢のものを披露するところあれば、のどかな雰囲気です。楽しい時を過ごすことができました。

私は理数科第一回生で在学中より紅一点は慣れっこでしたが、この頃は、支部会に高十五回の福岡和子先輩が何度か出席してください、とても心強くうれしく思いました。

一高は男子校というイメージはとつくの昔になくなっているのに、支部会に女性の参加者が少ないのがとても残念でなりません。女性の社会進出が顕著な現在、支部においてももう少しウーマンパワーを期待したいところです。女性の皆さん、ぜひ会に参加して花を咲かせてください。

高二十四回 黒田 美智子

高津天川支部

高津天川支部(宮本西嗣支部長・中四十回)総会は、去る五月十二日に土浦京成ホテルで母校の青山和義校長先生(高八回)のご出席をいただき盛大に開催されました。

平成七年度行事、ゴルフコンペ二回(霞丘CC)、ファミリーバスハイク(福島県浪江町泉田川の鮭狩りと相馬焼かまもと見学)、支部会誌「進修高津天川」第十七号の発行も終わり、新年度行事実施の検討で少し忙しいところです。

バスハイク実施は先ず候補地の中から行き先を決めて、運営委員 高橋義尚運営委員長・高八回の見どころ、食べどころ等の現地視察から始まりますので、忙しさもこれからです。

高津天川支部地区在住同窓生名簿(平成八年四月一日)は六百六十七名、会員二百三十九名で会員増運動を全員でやることになりました。

平成九年度は母校創立百周年記念の偉大な年ではありますが、高津天川支部も発足二十年で大変おめでたい年になります。

中四十五回 大津 一郎

潮来支部

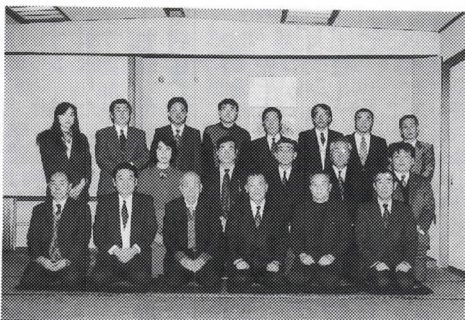
潮来支部は行方郡潮来町・牛堀町・北浦村(潮来地区)と鹿島郡鉾田町・旭村・大洋村(鉾田地区)、神栖町・波崎町および鹿嶋

市(鹿島地区)の居住者と勤務者として構成しています。

支部の誕生は顧問の榊原先生が会長の時です。数年間は本部から支部宛に送付された会報を、同窓会名簿を頼りに五十余名の会員に配布していました。昭和五十八年七月二十二日に二十二名の出席者で、初の総会を鹿島町「天鈴」で開きました。その後一年かけて名簿を作り、八十数通発送した結果、会員は七十二名になりました。

このたび平成八年一月三十日に十三年ぶりに総会を開催しました。鹿泉クラブに十七名の参加を得て、青山和義校長先生と事務局の野村ルナさんから母校の現況や百周年記念事業の内容など、ご説明をいただきました。会員から「支部は鹿行二郡・鹿嶋市で一つがよいのではないか」と要望がありましたので、玉造・麻生支部と話し合ってみようと思っています。

中四十五回 佐藤恒雄



13年ぶりの潮来支部総会

おしらせ おたより

高田保生誕百年

平成七年は高田保(中十二回)の生誕百年に当たり、各種の催しが開催されました。「土浦まちかど蔵」では、市立図書館の主催で「生誕百年記念展」が開かれ、その行事の一環として土浦社教センターホールで榊原勝氏(中二十五回)が「高田保の作品と人物像」の講演をなされました。



中25回 榊原勝氏と顕彰碑

また土浦文学(編集者発行人、榊原勝氏) 四十二号が高田保生誕百年号として発行され、同窓生では田坂昂氏(本名後藤守 中44回)が「高田保一摘録漫歩」、榊原勝氏が「百歳の高田保」、遠山都一氏(中二十五回)が「高田保さんの思い出」などの秀作を発表されておりです。

さらに榊原氏のご尽力により、高田保顕彰碑および胸像がモール505小網屋前に建立されました。なお胸像は高19回小張隆男氏の作品です。

中三十六回卒業
六十周年記念誌発行

中三十六回 片岡 久

私達は学年同窓会を「三六会」と名付け、派手な活動はしないが、地味で息の長い親睦を計る集会を持ち続けて来た。昭和四十六年には会則を設け、総会日を五月最終日曜日と定め、以来これを守り一回も欠かさず集会を持ち、恩師を招待し、土中時代を回顧し、友情を温め合ってきた。一昨年「六十周年記念誌」の刊行を提案した所、全員が賛成、早速編集委員を選びその作業を開始した。しかし喜寿前後の年齢に達した私達は思うように筆が進まず、編集委員会も十八回を数え、悪戦苦闘の連続であった。原稿を印刷所に持ち込めたのは昨年十一月。二回の校正を済ませ、今年四月末、ようやく発行にこぎつけた。表紙は会友である芸術院会員鶴岡君作のもので飾れた。



六十年前の土中時代を振り返る時、世は昭和と大不況の真只中、さ

らに満州事変、五・一五事件、国連脱退、二・二六事件と世相は険悪な空気に包まれて来た時代であった。しかしこうした時世にも拘らず、懐かしい思い出にみちた土中時代を過し得たことは有難いことであつた。

卒業は昭和十二年であつたが、日中戦争が泥沼化、やがて大東亜戦争へと突入し、わが三六会々員も多くが戦線に駆り出された。満州、中国、南方、ニューギニア、遠くはビルマ、印度の戦地で、多数の友が若い命を国に捧げた。

戦争に明け暮れた青春時代、戦後の混乱激流に翻弄された壮年時代を回想する時、感慨無量である。平和と繁栄を迎えたい、この貴重な体験を書き残すことは、私達自身のためばかりでなく、生き残った者の務めとして、はたまた子や孫に語り継ぐべき歴史であり、あながち無駄ではあるまいとの会員の思いが結集して、この記念誌の発行となった。

私達の卒業六十周年記念の年度は来年であるが、一年早めて今年の発行を目指した。寄稿されながら、完成した記念誌を見ずに他界された友も四名に及び、生存者も卒業時の半数を切ってしまったことは痛恨の限りである。遅きにすぎた発行であつたかもしれない。

物故恩師、物故会員のご遺族にも贈呈し、感謝と鎮魂の心を込めてご霊前に捧げた。永山先生からは「途中で止められず、夜一時まで読み続けた。立派な記念誌だ」とおほめの言葉を頂き、また、ご遺族からも、故人を偲ぶ文を添えて多数の礼状を頂戴し、私達の労も幾分報われたものと胸をなでおろしている。

高十五回稲見先生を囲む会

高十五回 小松崎 剛

平成八年五月十二日(日)、霞ヶ浦観光ホテルにて、高十五回の有志一同(E組主催)により、学主任の稲見敏雄先生の長寿をお祝いする会が開催されました。八十三才を迎えた先生を囲んで、クラス担任の横田尚義先生、久保隆司先生、鶴巻勝夫先生にもご参加をいただき、高校時代の思い出を語らうとともに、当時の先生方のご苦労に感謝いたしました。

稲見先生はお元気な様子で、就職した時から一高に赴任するまでのお話、戦後の厳しい社会情勢の中でのご苦労、さらに一高での楽しい思い出などを、当時と全く変わらぬ口調でお話になられました。

私たちもすでに当時の先生の年を越え、先生の温厚篤実なお人柄からにじみでる温かさをかみしめ、少しでも先生のご人格に近づきたいと思いながら杯を傾け、なごやかな一時を過ごすことができました。出席者は三十余名でしたが、遠くは横浜より駆けつけてくれた者もあり、今後ともこのような会を重ねることを約束し、散会しました。

エクアドルで還暦の同窓会

高五回 飯村 弘

一昨年、エクアドル大使に就任した高五回卒の堀哲夫君が母校土浦一高で講演をした後、高五回の同窓生が集まり市内のホテルで大使を囲む会をもった。その折りに来年、還暦の祝いを兼ねた同窓会を、エクアドルでやろうというところでもない提案が青木利夫君から出された。盛り上がったいた宴席からの無責任(?)な「賛成」「是非行こう」など威勢のいい賛同の



高5回エクアドル訪問団と堀大使ご夫妻

声と拍手とで、楽しい賑やかな会はお開きになった。

しかし、青木君は本気で、その後も計画を押し進め、何とか成功させようと旅行社を介して現地の堀大使ともファックスをやりとりするなど奔走した。こうして昨年六月、堀君の出身地である新治の御田寺義也村長を団長とする一行十二名の、「高五回エクアドル・ペルーの旅」が実現した。

職員室だより

地歴公民科(旧社)

新教育課程の実施に伴い、カリキュラムの上では社会科が地歴科と公民科に分かれました。しかし職員室はなんら変化がありません。また本年は異動もなく、一年は倫理郡司(1A担任)、政経田村(1G担任・高32)、二年は世界史松井(高21・常光寺(2A担任)、日本史鈴木(高21)、地理横瀬(2I担任)、三年は日本史中島(3A担任・高30)、世界史池井(3D担任・高30)、地理小松崎(高15)の九名のスタッフです。郡司先生は早くも丈児テストを開始され、松井先生はまたまた課題図書の鬼となっており、今年年間十冊は読ませると図書の選定に余念がありません(一冊目はシェークスピアのジュリアス・シーザー、二冊目が中尾佐助の料理の起源です)。池井芳則先生は理科の池井芳寛先生のご長男で、親子二代の勤務となりました。旧職員では永山正先生が益々お元気で執筆に当たられ、土浦出身の咸臨丸乗組員「嘉八」の渡米日記「異国の言の葉」について一を土浦文学に発表しておられます。また片岡博先生(高6)が定年で竹園高校をご退職、風間俊也先生(高10)が石下高校の校長にご栄転なされました。

国語科

麻生太治郎先生を藤代高校へお送りし、代わって成島義巳先生を銚田一高よりお迎えいたしました。一年は門井(一年副主任)・吉田(一I担任・高29)・成島(高20)、二年は大和田(高25)・大塚(高30)・山田(二G担任・高22)、三年は浅野(三年主任・高19)・宮内(三B担任)・中川(高30)・藤井(高12)の十名の陣容です。宮内先生はご家庭を犠牲にしながら一高祭を担当されました。大和田・吉田の両先生は本年も小論文の個別指導に熱心に取り組まれております。大塚奈美子先生は古橋靖先生のご長女で親子二代の勤務、教頭先生として筑波高校よりお迎えした長南紀郎先生(高8)は元学校長の長南俊雄先生(中21)のご子息、祖父の長南倉之助先生から数えて、三代にわたる勤務となりました。

定時制

本年は、定時制に十三年間もの長い間勤務なされた社会科三輪晃士先生をはじめ、半年ごとの交替でしたが熱心に御指導して下さいました。英語科長谷川澄子先生、日向美千代先生の三人の先生方が御退任、転出なされました。新たに、社会科には水戸一高から榎戸和也先生、英語科には銚田二高から綿引政美先生が来られ、お二人とも定時制は初めてですが、各々持ち味を出し、精力的に指導にあたっています。担任は一年が榎戸先生、二年が綿引先生、三年が鈴木先生、四年が原田先生となっています。去年から、定時制でも学校行事としてスキー教室を始めましたが、参加した生徒には大好評で、今年も続けて行う予定です。生徒と接するのはほとんど夜間なので、昼間白銀の世界の中、ともに過ごせたのは、我々職員にとってもとても楽しい思い出でした。今年の春休みには定時制職員室の大掃除をし、 unnecessaryな物を整理し、机の配列もがらんと変え、見違えるようにきれいになりました。職員もこれを機会に気分を一新して、さらに気をひきしめ定時制教育に力を尽くしたいと考えております。



各部だより

ラグビー部

二月の新人戦では太田一高を逆転で破り、久しぶりにベスト4に進出しました。県地区対抗の県南選抜チームにも六名が選抜され、主将の佐々木は県選抜の候補にも選ばれました。しかし清真・若溪の二強との差はまだ大きく、まずはスクラムとタックルの強化が必要です。OBの広瀬直人氏(高35・小学館)が毎週末にグラウンドを訪れ、部員と一緒にプレーしコーチしてくれるので密度の濃い練習ができるようになりました。また鬼沢俊昭氏(高28・味の素)もしばしば味の素製品を携え、現役を激励に来てくれます。また旧職員(体育科)で元監督の内藤文夫先生が、今春より神奈川の強豪県立相模台工業高校(先生の母校)の監督に就任されました。ぜひ花園ラグビー場とともに戦えるように部員一同頑張りたいと思います。新入部員も十四名となり、二年七名、三年十二名、女子マネー三年三名、三年四名と合わせて四十名となりました。またOB会からはスクラムマシン(時価四十万円)を製作していただいたり、京成ホテルでの新年会に現役全員を招待していただいたりと多大なご支援をいただきました。紙上を借りまして御礼申し上げます。

(監督 松井泰寿)

吹奏楽部

去る三月二十日、土浦市民会館において第十二回定期演奏会が開かれました。この日は祝日ということもあり、観客の入りは上々でした。毎年、この定期演奏会には、各パートの人員不足から、OBの方々が多数参加して下さいます。四月には新入部員を迎え、部員数は一年二十二名、二年二十二名、三年十二名となり、かつてない賑わいをみせています。編成別にみると、木管二十四名、金管二十四名、打楽器八名と、ある程度バランスはとれていますが、学校の楽器がかなり不足あるいは老朽化しており、自分持ちの楽器に頼らざるを得ないところがあります。特にクラリネット、フルートは学校のもので使用可能なものが一本もない状態ですので、同窓会のご支援をいただければ幸いです。普段の活動は旧本館にある部室で行っています。天井が高いために音がよく響く反面、夕方になるとかなり暗くなってしまうようです。また、定時制があるので、他の部活と比べて練習時間が短いのが悩みです。六月九日の一高祭での演奏会を機に三年生は引退し、現在は一・二年生が主体となって、東関東大会を目標に夏のコンクールに向けて練習に励んでいます。

(部長 二年 大津雄一朗)

旧課程最終入試で、背水の陣 首都圏難関大へ猛攻

全国第一位 公立校東大現役合格者数

平成8年度大学入試報告 進路指導部

平成8年度入試はいわゆる旧課程最後の入試で、本校では首都圏難関大志向が極端に強く出た入試となった。この入試で失敗して九年度入試へ持ち越せば、入りたい大学への進学が不利になるかもしれないという生徒・教師共通の危機意識は、図らずも背水の陣を布くこととなり、首都圏難関大へ猛烈な攻勢をかけることになった。危機感が安全圏内への逃避とならず、強気反転するところが、本校教師・生徒の誠に頼もしいところである。

◆国立・私立大共に大成功◆

平成8年度入試は、東大現役合格者数が、公立高校全国第一位、続く東工大合格者数は全国五位となり、いわゆる公立の進学校としての面目躍如たるものがあつた。筑波大も例年の如く当然全国第一位にはなったが、東北大、千葉大などと共に昨年より合格者数を減らした。

一方、早・慶・上智・理科大等の首都圏難関私立大の合格者数は校内記録をぬりかえた。

◆学区編成後初年度の卒業生◆

平成8年度入試の現役生は、学区改正後の初の卒業生である。それ故に今年度入試の成否は、土浦一高の将来をも左右しかねないという責任があつた。教師生徒一丸となった奮励努力によって、危惧した部分が、全くの杞憂に終わったことは、誠に慶賀すべきことで

◆進学率は維持◆

私立大では合格率が上昇し、難関国立大不合格者の半数以上が早・慶・理科大等に救われて進学し、結局は進学率も昨年同様六二%を維持した。要するに難関私立大の合格増によって、進学した生

徒の数は、昨年と変わらなかったのである。ひとえに三年間にわたる生徒諸君の努力研鑽のたまものであり、それを導いた学年教師集

の団のひたむきな努力、熱のこもった指導の成果でもあつた。

の団のひたむきな努力、熱のこもった指導の成果でもあつた。

平成8年度大学入試 大学別合格者数

東大(現24)＝公立校全国第1位・東工大21＝公立校全国第5位・筑波大40(現30)＝全国第1位
記数更新：東大(現24)・東工大21(現18)・早稲田大79(現51)・慶応大73(現46)
上智大30(現19)・東京理大(現49)・立命館大22

国 立 大 学	大学名	合格	新卒	旧卒	平均
北海道		7	6	1	7.0
旭川医科		1		1	0.8
弘前		2	1	1	1.6
秋田		1	1		1.2
東北		20	16	4	24.4
山形		3	2	1	2.2
茨城		10	8	2	23.0
図書館情報		1	1		3.0
筑波		40	30	10	52.8
群馬		2		2	2.0
千葉		9	6	3	12.6
埼玉		4	1	3	6.0
お茶の水女子		6	4	2	4.8
電気通信		1		1	2.8
東京		32	24	8	26.8
東京医科歯科		1		1	2.6
東京外語		2	2		5.0
東京学芸		5	4	1	7.2
東京工業		21	18	3	12.8
東京農工		1	1		2.4
一橋		7	5	2	6.0
横浜国立		10	4	6	10.6
新潟		4		4	1.6
富山医科薬科		2	1	1	
金沢		1	1		1.6
信州		2	2		3.2
山梨医科		1	1		0.6
浜松医科		2	1	1	2.0
名古屋		6	2	4	3.4
京都		2	1	1	3.4
大阪		5	1	4	2.8
奈良女子		1		1	0.4
岡山		1		1	
広島		1		1	0.8
高知		1		1	0.2
九州		2		2	0.4
宮崎医科		1		1	
国立大学計		218	144	74	254.8

私 立 短 大		大学名	合格	新卒	旧卒	平均
筑波	医療短大	短大計	1	1		
都立	医療短大	短大計	1		1	
国立	短大計	短大計	2	1	1	

公立大学		合格	新卒	旧卒	平均
大学名		1	1		
会津	1	1			
福島県立医科大学	1		1		
茨城県立医療大学	1	1			0.4
東京都立大学	6	4	2		5.6
横浜国立大学	3	2	1		3.8
都留文科大学	1		1		0.4
静岡県立大学	1		1		0.6
京都府立大学	1		1		0.2
大阪府立大学	1	1			0.4
公立大学計	16	9	7		15.4

大 学 校 等				
大学名	合格	新卒	旧卒	平均
防衛	5	2	3	2.8
気象	1		1	0.4
航空保安	2		2	0.4
大学校等計	8	2	6	4.2

私 立 大 学					
大学名	合格	新卒	旧卒	平均	
北海道医療	1		1		
北星学園	1	1			
北海道薬科	1	1			
つくば国際	1		1		0.2
白鷗	2		2		0.4
足利工業	1		1		0.8
東京国際	2		2		1.0
埼玉医科	1		1		0.6
明海	1		1		0.6
文教	1	1			3.0
千葉工業	5	1	4		5.0
和洋女子	1	1			
麗澤	3	2	1		1.4
亜細亜	4	1	3		2.0
青山学院	26	14	12		25.2
大妻女子	2		2		1.0
桜美林	1		1		8.0
学習院	14	8	6		13.4
北里	7	3	4		4.4
共立女子	3	1	2		3.6
共立義科	3	1	2		2.4
杏林	3	1	2		1.2
慶応義塾	73	46	27		52.4
國學院	7	1	6		3.8

私 立 大 学	大学名	合格	新卒	旧卒	平均
国際基督教		4	2	2	3.0
国士館		4		4	2.2
駒沢		8		8	7.6
白百合女子		1	1		0.4
日本		21	8	13	32.8
日本医科		1	1		
日本獣医畜産		1		1	0.8
芝浦工業		9	5	4	13.8
順天堂		2	1	1	0.4
上智		30	19	11	20.0
昭和薬科		1		1	0.8
昭和		1		1	1.8
成蹊		3	1	2	5.6
成城		3		3	5.6
専修		6		6	7.2
大東文化		3		3	4.0
大正		1		1	0.8
多摩美術		2	2		0.2
多摩		1		1	
中央		33	8	25	36.6
津田塾		6	5	1	7.2
帝京		1		1	2.0
東海		5	2	3	5.0
東京家政		2	1	1	0.6
東京女子		12	8	4	10.0
東京造形		6	4	2	1.0
東京電機		2		2	10.4
東京農業		7	4	3	4.0
東京薬科		3	1	2	4.4
東京理大		97	49	48	80.6
東邦		7	2	5	3.6
獨協		1	1		2.2
東洋		9	4	5	9.0
二松学舎		2	2		1.8
日本女子		18	14	4	15.0
法政		23	9	14	33.2
星薬科		2	1	1	1.4
武蔵		4	1	3	4.8
武蔵工業		4		4	4.2
明治		45	13	32	44.8
明治学院		3		3	11.6
立教		27	13	14	20.4
立正		2		2	2.4
早稲田		79	51	28	71.4

私立大学					
大学名	合格	新卒	旧卒	平均	
麻布	3	1	2	0.2	
東洋英和女子	2	1	1	0.6	
文化女子	1		1		
聖マリアンナ医科	1		1	1.2	
川崎医療福祉	2	1	1	0.2	
愛知学院	1		1		
愛知医科	1		1		
京都外語	2	2		0.2	
同志社	3		3	4.0	
立命館	22	4	18	12.0	
龍谷	3		3	0.8	
大阪学院	5	2	3		
関西	6	2	4	3.8	
関西外語	4	3	1	1.0	
甲南	1		1		
私立大学計	723	332	391	696.4	

私 立 短 大		合格	新卒	旧卒	平均
大学名					
明治短大		1		1	
学習院女短大		1		1	
私立短大計		2		2	0.6

平成8年度入試合格者数				
大学種別	合格	新卒	旧卒	平均
国立大学計	218	144	74	254.8
国立短大計	2	1	1	
公立大学計	16	9	7	15.4
公立短大計	8	2	6	4.2
私立大学計	723	332	391	696.4
私立短大計	2	2	2	0.6
合 計	969	488	481	971.4

新卒：平成8年3月卒業生
(普通科48回、理数科25回)

本表は、平成8年度入試で合格者の出た大学のみを掲載した。空欄は0である。

平均欄は、平成3～7年度入試の5年間の合格者数の平均値である

母校だより

第49回一高祭開催

無限に広がる文化の(濤)

一高祭運営委員長 小菅 真史

去る六月七日、「(濤)」一隔たりを超えて」のメインテーマのもと、千二百名の熱と意気に燃えた第49回一高祭の三日間が始まりました。旧体育館が解体され、第三会場は新体育館に移し、第一会場と併行して行うことになりました。六月八日、新体育館で行われた「のど自慢」、広い会場にもかかわらず例年以上の盛り上がりでした。新しい試みである「一高祭歴代ポスター展示」は予想以上の反響を呼びました。また地方の良さを再認識させる「村おこし地方自慢大会」も新鮮な感動を呼び起こしました。

水面に石を投げると波紋が無限に広がっていくように、私たちは一高から文化の波を起こしたいと考えました。一人一人が一高祭に全力投球をして小さな波を起こそうと努力しました。その小さな波が集まって、テーマ通り「(濤)」になったのではないのでしょうか。しかし内容についてのレベルの低下という声が聞かれます。その原因はいろいろ考えられますが、その最大のは先輩後輩、上下関係の断絶にあると思います。先

輩方からお話を伺いましたところ、以前は各委員長が次の年の委員長候補者をつねに側において、仕事を覚えさせながら、準備を進めていたそうです。ですから一高祭が終了した時点で、もう翌年の委員長が決まっております。仕事の段取りもだいたい理解していたそうです。しかし私たちは全く解らない状態からスタートせねばなりませんでした。このように最近は何年度からの引き継ぎが徹底されていせん。そこで今後の課題としては、引き継ぎをきちんと行うこと。また、また一般生徒の中には参加意識が薄い者が多いため、全員のより積極的な参加を促すことの二点があげられます。

反省会などで、参加が少ないから期間を二日間に短縮しようという意見が出ましたが、短縮案を考えるよりも、全員で企画・運営し、今まで以上に充実した三日間にしたいと思ひます。

後輩達にはなにもしてやれませんでした。問題提起をし、後輩達にあとを託したいと思ひます。来年は創立百周年、一高祭は五十回と記念すべき年になります。これまでの伝統や文化が先輩から後輩へ正しく受け継がれてはじめて、今年のテーマ「(濤)」一隔たりを超えて」が実現されることになるのだと思ひます。

平成八年前期

部活動主な記録

関東大会

〈ヨット〉(広島国体出場権獲得)

女子 ソ ロ競技7位

デュエット競技5位

三年、土田・村山組

県大会

〈ラグビー〉新人戦

二回戦 土浦一 49-3 緑 岡

三回戦 土浦一 23-22 太田一

準決勝 土浦一 5-102 茗溪

〈軟式野球〉関東大会予選

一回戦 土浦一 6-2 茨城

二回戦 土浦一 3-2 下館一

三回戦 土浦一 4-3 竜ヶ崎一

準決勝 土浦一 7-9 茗溪

〈サッカー〉関東大会予選

一回戦 土浦一 0-2 鹿島

〈ハンドボール〉インタハイ予選

一回戦 土浦一 20-18 藤代

二回戦 土浦一 4-28 伊奈

定通大会

〈卓球〉(全国大会出場権獲得)

女子個人シングル 3位

1年 沼尻ひとみ

男子個人シングル 3位

2年 飯田 潤

〈陸上〉(全国大会出場権獲得)

男子1000M 1位

1年 貝塚 利哉

女子円盤投げ 1位

1年 武井 玲子

女子円盤投げ 2位

3年 荻谷ゆみえ

PTA本部新役員決定

全日制会長 青木孝之氏

定時制会長 飯田文乃氏

五月のPTA総会に於いて、本年度のPTA本部新役員が決定しました。全日制では青木孝之会長(高18)をはじめ、副会長に国谷紀夫(高20)、谷中良雄(高12)、石田英一(高16)の三氏が選ばれました。また定時制では飯田文乃会長のほか、副会長に渋谷義和氏、加藤恭一氏が選任されました。

会費納入のご報告とお願い

平成七年度は、平成八年二月末日現在で、約三千名の会員(有志一同の方々もいらつしやるため概算)から、合計千九百九十五万円の会費を納入していただきました。引き続き今年度も納入していただきたく、振替用紙を同封いたしました。会費は、今まで同様各同窓会事業費(百周年記念事業は除く)に当てる他、来年でできる同窓会館の建設後の運営費としても活用されますので、よろしくご協力の程お願いいたします。

編集後記

例年10月発行の予定が急遽7月発行となり、短期間での編集作業となりました。編集委員一同、読みやすい会報とすべく、紙面の改版をいくつか試みました。ご感想をお聞かせ下さい。今後さらに充実した内容にしていきたいと思ひます。表紙の挿し絵は中27回佐賀進氏の作品をお借りしました。遠き日々の思い出を懐かしんでいたかったです。

進修同窓会会報 第53号

発行日 平成八年七月十九日

会報委員会(委員長 遠藤俊夫、

編集長 長南紀郎)

横田尚義 木島幸夫 谷中良雄

堀越 博 宇田川仁一郎 宇田邦

利 鈴木志郎 鈴木淳一 野村ル

ナ 吉沢 滋 松井泰寿 池井芳

則 中江哲史

百周年記念誌

進修百年

予約受付中

—土浦中学・土浦一高 百年のあゆみ—

平成九年十一月発行予定

定価 三千五百円

B5版 八〇〇頁

同封の申し込み書にてお申し込み下さい。
申し込み締切 平成八年十二月末日